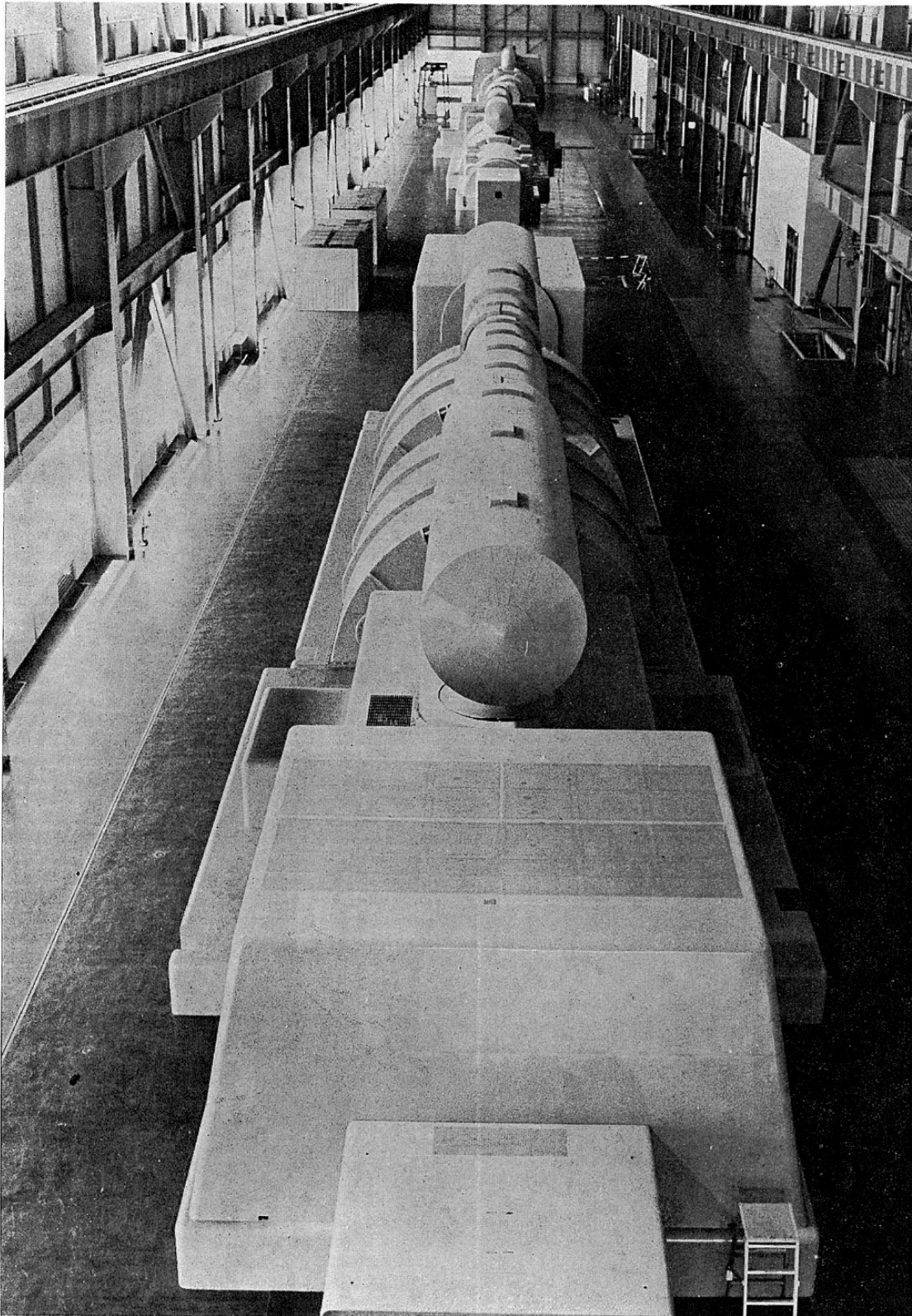


唐津3号機運開、九州最大の電源地帯に



3機合計で 100万キロ突破

〔唐津=6月30日〕九州最大の出力を誇る佐賀県唐津市二太子3丁目の九州電力株式会社唐津発電所3号機(出力50万キロワット)が完成し、さる6月30日営業運転に入った。

当社はボイラ関係を三菱重工株式会社長崎造船所から、またタービン関係を東京芝浦電気工事株式会社から受注、46年11月1日唐津建設所(梶島所長)を開設し、同年11月15日のヘッダー掲げから本格的な主要機器の据付工事にとりかかった。翌47年6月1日にボイラの水圧検査、8月1日に受電、11月11日に火入れ式が行なわれ、48年1月1日に通気式、2月1日に初併列と工事を順調に消化し、今年2月から試運転が行なわれていた。

また、当社は付帯工事として復水脱塩装置、復水器循環水管、電気集塵器、煙突水洗装置、75,000ℓ重油タンク、重原油受入装置、除塵装置なども行なった。

これらの建設工事は梶島所長を総責任者として、田中信夫所長代理が全般を統轄し、ボイラ関係は山口所長代理、タービン関係は石井所長代理が責任者となって工事を進めていた。本工事に入ってから、雨などの不順な天候にたたられたが、所長をはじめ関係者全員が一丸となって合理化、省力化をおしすすめ、工程的な遅れもたさず運開まで予定どおりの進捗状況を見せた。

同発電所は虹の松原を近隣にひかえ自然環境に恵まれているため、大規模な緑化運動を進めるなど周囲との調和をはかり、その他高煙突の採用、高性能集塵装置の設置など環境保全には万全の対策が施こされている。

同3号機の主要設備は、三菱ズルガCEコンバインドサーキュレーションボイラ(蒸発量1,710トン/時)およびタンデムコンパウント4フロータービン(出力50万キロワット)が採用されている。

この営業運転開始で、同発電所の建設工事を担当した唐津建設所は、6月30日付で廃止となり、今後保修体制に入る。

なお、同3号機の完成によって、1号機(15万6,000キロワット)、2号機(37万5,000キロワット)合わせて発電量が百万キロワットを突破し、九州では最大の電力供給地帯の誕生となった。

〔写真〕 始動した3号機タービン(手前から3号、2号、1号の各タービン)